1．事業概要

1．事業概要

建設業の担い手不足等に対応するため、県では「山形県建設ＤＸ推進戦略」に基づき、ＩＣＴ活用工事を中心としたデジタル技術を活用した工事の拡大を目指しています。

比較的大規模な工事を受注するＡランク事業者には、デジタル技術の活用が一定程度広がっている一方、Ｂランク以下の中小事業者には必要性や効果が十分に認識されていないことなどから普及が進んでいないことが課題となっています。

今後、ＩＣＴ活用工事の標準化も想定されることから、中小事業者が受注する比較的小規模な工事において、操作が簡単で取り組みやすいデジタル技術を負担感のない形で利活用してもらい、メリットを実感してもらうモデル事業を実施します。

「山形県建設DX推進戦略」における
【目標指標】ICT活用工事を中心としたデジタル技術を活用した工事実施件数

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
山形県建設DX推進戦略	短期重点期間（R6～R8）				
目標指標	20%	50%	70%		
実績値	17%（暫定値）				

【 令和7年現場アンケート※ ICT活用工事等の実施率】

区分	実施する(A)	実施しない	計(B)	実施率(A/B)
Aランク	121	100	221	55%
Bランク以下	17	81	98	17%
計	138	181		

※ 令和7年6月末時点で稼働中の現場を対象

普及が進んでいない
中小事業者への対策が必要！

《中小事業者の声》

・自分たちが手がける小規模工事では、ICT活用は不要（導入効果が不明）

・限られた安全経費や利益を削ってまで導入できない

・費用や技術的な支援がないと活用できない（資金面、技術面、人材面で不足）

2．令和8年度の実施内容

2．令和８年度実施内容

【R8は、8件分の予算を確保】

＜モデル工事の実施＞

・中小事業者が受注する規模の工事において、自動追尾型トータルステーション（ＴＳ）の活用を指定するモデル工事を発注

＜受注者への支援＞

・山形県建設技術センターと連携し、受注者の希望に応じて、自動追尾型ＴＳを無償貸与

・自動追尾型ＴＳの操作方法や３次元データの作成方法などの技術支援の実施

＜効果測定とＰＲ＞

・受注者は、自動追尾型ＴＳの活用による省人化、省力化等の生産性向上効果（人員や作業時間の削減等）の測定に協力

・県は、生産性向上の効果等のデータをとりまとめ、建設ＤＸの普及に向けて、同規模の中小事業者に対して導入効果をＰＲ

【建設DXチャレンジ事業】

《モデル工事》

〈活用するICT機器〉
操作が簡単で小規模工事に適した「自動追尾型TS」※を無償貸与



【従来】２人以上必要



【ICT活用】１人で可能 ・操作が簡単

※人が持っている目印を機械が自動で追いかけて位置や高さを計測できる測量機器

＜生産性向上（省人化、省力化等）を実体験＞



3．モデル工事（8件）の受注状況

公所	工事種別（施工場所）	受注者	ランク（土木）
村山本	押切川 渓流保全工事（天童市田麦野）	有限会社大森建設	C
村山西	（国）287号 側溝整備工事（寒河江市日和田）	株式会社渡辺工務店	B
村山北	（主）尾花沢最上線 路肩復旧工事（尾花沢市二藤袋）	丹生工業協同株式会社	B
最上	6年災4637号外舟形川河川災害復旧工事（舟形町舟形）	株式会社八鍬建設	B
置賜	（国）287号 側溝整備工事（川西町時田）	有限会社米野建設	B
置賜西	（一）五味沢小国線 側溝整備工事（小国町今市）	安部工業株式会社	B
庄内	（一）宮野浦坂野辺新田線 側溝整備工事（酒田市宮野浦）	上野建設株式会社	B
庄内	道形黄金線 水路設置工事（鶴岡市上畑町）	株式会社山口工務店	B

4．自動追尾型トータルステーションの無償貸与と操作説明



公益財団法人山形県建設技術センターから、「自動追尾型トータルステーション」を受注者へ「無償貸与」するとともに、「操作説明」もあわせて実施。



5. 実施状況

側溝整備工事(置賜(本))





丁張確認 （測量機側で測る人員が不要）





完成検査 （検査時も基準高の確認に活用）

路面復旧工事(村山(北))





現況測量 （測量機側で測る人員が不要）

6. 完成後(活用後)の受注者アンケート （現時点で置賜(本)の1社のみ回答）

■ 機器の使用期間　令和8年5月27日 ～ 10月7日 （134日間）

Q） 作業時間の短縮について(生産性向上について)
A） 非常に短縮された(効率化できた)

Q） 作業人員の削減について(省力化について)
A） 大幅に人員を削減できた(省力化できた)

(意見・感想)
測量時の人員が半分になり、現場で電卓を使って計算することが無くなった。

Q） 貸出機器の「操作性」や「サポート体制」について
A） 非常に使いやすく、十分なサポートがあり、安心して使用できた。

(意見・感想)
人員を必要とせず、計算間違いもなくなるため、自社で所有して積極的に活用していきたい。

生産性向上効果(効率化、省人化のデータ)を集計中